

○作文 青森県児童文学研究会 会長 野澤 秀昭 氏

入賞したどの作品も、体験の中で、新しい発見と驚き、喜びや感動を経験し、それを作文にする中で深めたり広めたり、自分の周りを見直している。

自分の生活と生命に根源的に関わる「ごはんとお米」について、家族や郷土の人々の働く姿や考え方に感動と感謝を深め、素直に表現している。

これらの経験の再認識によって、子どもたちには「自分にもなにかできるんだ」という有能感が育ち、人間信頼と郷土を愛する心が深まり、子どもにとって、もっとも大事な自己信頼の根が育っていくのだと感動しました。特に上位三作品はいきいきとした生命感あふれる文章表現がすばらしい。応募された各学校の先生方に心から感謝を申し上げます。